



またもや連覇

第二十八回 協和団 体育祭 優勝

わずか『5点』

今年の体育祭は最後まで読めなかった。スタートで一步出遅れた創造団だったが、学年の個人種目では着実に点数を伸ばす一方で、力競技では一向に芽が出ず…。団対抗リレーでの



合計得点では協和団を勝り、着実に点数を積み上げていった知性団だったが、最後は5点差でわずかに及ばなかった。

勢い止まらずV4

今年のリレーも協和団が制し、見事V4を果たした。予行練習の結果では創造団の復活が密かにさやかれていた。しかし、予定通りに行かないのが世の常である。最終的には協和団が意地を見せ、ゴールテープを一番に切った。こ

た。ここ数年での協和団の強さは何なのだろうか。来年は2年前に創造団に阻まれた総合優勝三連覇がかかっている。協和団はこのまま行くのか、今から楽しみである。

小中交流玉入れ

今年度から新種目として44名の小学生を迎え、小中交流の玉入れが行われた。先輩の応援合戦をしっかりと観戦し、来年への士気を高めながら元気に玉入れに参加してくれた。



堂々の四連覇！

の協和団の四連覇の一勝目は創造団の五連覇を食い止めてのものである。史上初の五連覇となるか。来年のリレーに期待がかかる。

体育祭通信

土浦六中体育部 発行
〒300-0837
土浦市右廻428番地

いちいふんとう
一意奮闘

演舞で三連覇

引き継がれる六中魂……

新たな伝統

今年も創造団の応援合戦優勝が協和団完全優勝に待ったをかけた。そして、今年度の優勝で創造団は応援合戦三連覇となった。多くの卒業生や保護者がその時間に

合わせて見に来るなど注目度は非常に高く、本部席の後ろはカメラを持った人たちが溢れかえる。

創造団が2年前に初披露した『創造乱舞』は今までの六中応援合戦に変化の波を起こした。昨年度、演舞として名称を変え、知性団も一部導入。アピールタイムが中心だった六中の応援合戦の雰囲気

が少しずつ変わり、『演舞』は応援合戦のスタンダードとなった。一方で、今年度からどの団も導入したことでの構成からは甲乙つけがたい状況となった。しかし、2年間『演舞』を間近で見てきた創造団の完成度は他団の追隨を許さなかった。昨年度の団長の



演舞を心から楽しむ川路団長

意志を継ぎ、『一生懸命楽しむ』ことが団員の顔ににじみ出ていた。そして、6分54秒という好タイムで演技を終え、昨年の課題

をしつかりと修正してきた。しかし、実はもう一つ隠し球があった。

左の写真を見て分かるように応援団員以外の生徒が後ろで人文字を作っていたのだ。「後から分かって二度おいしい」と語る創造団。演技の時には気づかれず、おそらく採点には反映されないと



後から分かるSONO

で力を入れているところが創造の王者たる所以かもしれない。

溢れ出した思い



今年度、稲野邊校長の講評の中で『頑張った知性団に特別

賞を捧げたいと思います。が、どうでしょうか』と言葉があり、その瞬間会場中で拍手がわき、沼尻団長が前に出た。学校長のカップを渡しながら『頑張りました。ありがとうございます。』という言葉に沼尻団長の体育祭に対する今までの思いが溢れ出した。今まで『残念賞』だろうという声も囁かれていた『特別賞』だが、特別賞の重みを誰よりも感じているのはそれまでの活動を懸命にやってきた知性団であり、沼尻団長の涙がそんな考えを吹き飛ばした。教育とは、成長するとはこういうことなのだと今回の特別賞の受賞で強く感じた。

六中史上初

体育祭で注目度の高い種目で部活動対抗リレーは外せない。今年は男子はバスケットボール部が6年ぶりに優勝し、女子は吹奏楽部が初優勝。昨年、吹奏楽部は三番目にゴールするも残念ながらバトンミスにより失格となってしまっ



アンカーの日佐戸

たときより喜んで「いる」と語る、苦笑いの内田氏であった。

◇編集後記◇

文字数の関係上、一部の種目と生徒しか紹介できませんでした。申し訳ありません。しかし、みんなが活躍した素晴らしい体育祭となりました。ありがとうございました。(岡本)